|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ３部 ２章　アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 | | |
|  | １節　**明の国際秩序と東・東南アジア** | 教科書  p.135～143 | 年　　　月　　　日 |

**年　　　組　　　番／名前**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

□節の課題

Q：明と世界の諸地域は，どのように結びついていたのだろうか。

＜学習のポイント＞

（1）明と世界各地の結びつきの特徴を理解しよう。

（2）明と世界各地の結びつきの特徴について考察し，自分の言葉で表現しよう。

●明の成立とユーラシア東方

**洪武帝**

**明**

①〔①　　　　　〕の太祖(〔②　　　　　〕・〔③　　　　　〕)

**朱元璋**

「14世紀の危機」→紅巾の乱のなかから朱元璋が中国を統一

江南から初めて中国を統一，一世一元の制の始まり

**衛所制**

**里甲制**

〔④　　　　　〕で農民を直接把握，〔⑤　　　　　〕で軍を統括

**永楽帝**

②〔⑥　　　　　〕

**北京**

**永楽帝**

靖難の役→反乱後，〔⑦　　　　　〕が即位→〔⑧　　　　　〕遷都

**鄭和**

ムスリムの宦官〔⑨　　　　　〕をインド洋に派遣→東アフリカまで

③モンゴルのその後

大元ウルスの朝廷はモンゴル高原に移る→北元→弱体化

**長城**

モンゴルのオイラト部の圧力→明，〔⑩　　　　　〕を堅固にして防衛

●明の海禁＝朝貢体制とアジア海域

①日本の「14世紀の危機」

鎌倉幕府滅亡・南北朝の動乱

**倭寇**

　　→〔⑪　　　　　〕(前期倭寇)の襲撃＋高麗・元の沿岸部の住民も合流

②明の対策

**海禁**

明は倭寇を武力で禁じ，民間の貿易を禁止→〔⑫　　　　　〕

**海禁=朝貢体制**

対外関係は国家間の冊封・朝貢に限る〔⑬　　　　　　　　〕

**勘合貿易**

　→足利義満も明の冊封を受け朝貢貿易(〔⑭　　　　　〕)に参加

③朝鮮半島の「14世紀の危機」

**朝鮮**

**李成桂**

　〔⑮　　　　　〕(太祖)：高麗を倒し〔⑯　　　　　〕を建国

**訓民正音**

　世宗のときに表音文字の〔⑰　　　　　〕(ハングル)を制定

●海の王国と陸の王国

部分サンプル

①海の王国

**琉球**

　〔⑱　　　　　〕と福建商人→中国への朝貢，日本ｰ東南アジア間の中継貿易

**マラッカ王国**

　〔⑲　　　　　　　〕はインド洋・東南アジア・東シナ海を結ぶ

**綿布**

**香辛料**

　東南アジアの〔⑳　　　　　〕を輸出，インドの〔㉑　　　　　〕を獲得

ムスリム商人との交流→イスラームを受け入れる

②陸の王国

**アユタヤ朝**

タイ人の〔㉒　　　　　　〕(シャム)の勢力拡大→カンボジアの衰退

**上座仏教**

インドシナ半島では〔㉓　　　　　〕が広まる

**黎朝**

ベトナム(大越)の〔㉔　　　　　〕は明の支配を撃退

→南進してチャンパーを攻撃

●明後期の産業・商業の発展

①農業生産の向上と手工業・商業の発展

**江南デルタ**

　〔㉕　　　　　　〕：生糸・絹織物・綿織物の家内制手工業

　長江中流：稲作の中心→「湖広熟すれば天下足る」

**徽州商人**

**山西商人**

　〔㉖　　　　　〕・〔㉗　　　　　〕が塩の専売や軍需で富を得る

　福建の人々は海上交易　各地に同郷者の拠点である会館・公所を設ける

②「大航海時代」とのつながり

**生糸**

**陶磁器**

　中国の〔㉘　　　　　〕と〔㉙　　　　　〕が国際的な商品となる

**メキシコ銀**

**日本銀**

　　〔㉚　　　　　〕・〔㉛　　　　　　〕が貿易の対価として流入

**一条鞭法**

　中国では銀の使用が一般化し，銀で納税する〔㉜　　　　　〕が広まる

●明後期の社会と文化

①農村の状況

**郷紳**

　科挙合格者→地方で勢威をもつ〔㉝　　　　　〕となる

　農村では家族経営の小農民が手工業も行う

　大規模経営は一般的ではなく，有力者も世襲はなかった

②文化

　大衆向けの四大奇書：『西遊記』『水滸伝』『三国志演義』など

**綿**

　民衆も茶の飲用・陶磁器や〔㉞　　　　　〕の使用

**王陽明**

**陽明学**

　〔㉟　　　　　〕：〔㊱　　　　　〕が説く，個人の心情と実践を重視

　『天工開物』など多くの分野で実用書が著される

イエズス会：ヨーロッパの知識・技術を紹介

●16～17世紀の貿易をめぐる動きと政治・社会変動

部分サンプル

①明の海禁＝朝貢体制への対抗

**互市**

**後期倭寇**

　私貿易+海賊→〔㊲　　　　　〕←明，日本以外と民間貿易(〔㊳　　　　　〕)を認める

　北方：モンゴルのアルタンにも国境貿易を認める

②新興武装勢力

　東方：女真が統合

　日本：織田信長・豊臣秀吉が鉄砲・貿易港・銀山を掌握し統一

**朝鮮出兵**

　秀吉の〔㊴　　　　　〕→中国との貿易が困難に

　徳川家康は東南アジアなどに朱印船遣わす→中国商人と現地で交易，オランダ商人も貿易に参入

③明の滅亡

　張居正の中央集権的改革に対する地方の反発

**李自成の乱**

　税は軍備などに使われ，農村が窮乏→〔㊵　　　　　　〕で滅亡

●清の形成とチベット仏教世界

**清**

①〔㊶　　　　　〕

　女真人は明との交易をめぐり抗争

**八旗**

**ヌルハチ**

→〔㊷　　　　　〕が女真人を統合，〔㊸　　　　　〕を編成→後金を建国

　ホンタイジ→民族名を満洲，国号を大清(〔㊹　　　　　〕)に改める→皇帝と大ハーンを兼ねる

**清**

　李自成の乱で混乱する中国を平定

**チベット仏教**

②〔㊺　　　　　　　〕の拡大

**ダライ=ラマ**

　〔㊻　　　　　　　〕の影響力はパミール以東一帯に及ぶ

　ダライ=ラマをめぐりモンゴル・オイラト(ジュンガル)，女真の間で争いとなる

□１節のまとめ

Q：明と世界各地の結びつきにはどのような特徴があるか，あなたの考えを説明しよう。

**例：明は建国当初，厳しい対外関係管理体制である海禁＝朝貢体制で諸外国に臨み，諸外国は明と貿易するためには臣下として朝貢・冊封を受け入れなければならなかった。明も，朝貢を促すために鄭和の艦隊をインド洋まで派遣したり，琉球に毎年の朝貢を許した。国際貿易が回復すると世界各国は明の生糸・陶磁器を求め，明に大量の銀が流入するようになったが，明が海禁＝朝貢体制を変えようとしなかったため，周辺諸国のアルタン，豊臣秀吉，ヌルハチなど周縁勢力は武力で明の貿易統制を崩そうとした。**